

平成29年度
入学試験問題

国 語

特待生
後期

受験番号	氏 名

中村中学校

□ 次の(1)～(10)の——線のカタカナを漢字になおして答えなさい。

- (1) 書類にシヨメイする。
- (2) シンキ一転してがんばろう。
- (3) テンケイ的な例を挙げる。
- (4) 先生のお宅をハウモンする。
- (5) どんなギャツキヨウにも負けない。
- (6) 地中のコウブツを調査する。
- (7) 牛乳のシヨウミ期限が切れる。
- (8) かのじょがチームをヒキいる。
- (9) 体に水分をオギナう。
- (10) 小さな店をイトナむ。

〔二〕 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

(設問の都合上、本文を改変、省略したところがあります。)

*字数指定のある問題については、句読点・記号も字数に数えます。

コンセンサスという言葉があります。日本語では、意見の一致と

か、合意、と訳されます。政治では、よく「国民の合意をとりつけ

た」とかいう言い方がされますが、いろいろな考えの人がいて、た

くさんの政党があることからわかるように、政治的なことについ

て完全に国民の合意を得られることなどほとんどありえません。

政治的なことについて、完全な合意がなされる、あるいは、なさ

れたと政府によって解釈される、というのは、むしろ恐ろしい状

況です。第二次世界大戦前の日本や、ナチスが台頭した時代のド

イツのことを考えてみればわかるように、言論弾圧や戦争などとい

った恐ろしいことの引き金になる可能性が十分にあるのです。

それに対して、科学というのは、コンセンサスを得やすい分野で

す。それは、科学は、政治信条のような「好き嫌い」ではなくて、

「真実」をあつかうからです。「」付きの真実という、少しあい

まいな書き方をしたのには理由があります。トンデモ説ほどひどく

はなくとも、いま正しいとされていることであっても、ひよっとし

たら、研究が進むにつれて、将来、正しくない判定されることは

十分にありえるのです。すなわち、本当の真実かどうかを完全に断
定することは難しいということなのです。

こういったことまで考えて、物事を完全に断定的に言い切らない

ことが多いのは、科学者のひとつの特徴です。科学者が真実を尊

いと思うが故の行動パターンですから、

い方もできます。けれども、こういう言葉遣いは、慎重すぎでちよっ

とうとうしいと思われるかもしれません。

一つの例として地動説を考えてみましょう。現在では、地動説と

いうのはコンセンサスになっています。しかし、ガリレオやコペル

ニクスの時代以前は、地動説ではなくて天動説がコンセンサスだっ

たのです。科学におけるコンセンサス——あるいは、この場合は常

識と言ってもいいかもしれません——は、必ずしも正しいとは限ら

ないということが、この例だけからもわかるでしょう。

このように多くの人が共有している科学的な知的枠組を、難しい

けれどちよっとかっこいい言葉で「パラダイム」と言います。太陽

が昇る、という観測事実、はるか昔から皆が知っていたわけです。

その事実、昔は天動説のパラダイムで説明されていたのが、次に

述べるように、科学的な観測が蓄積した結果として破綻し、地動説

のパラダイムへと転換したという訳です。

天動説を信じていたなんて、昔の人は頭が悪かったんだなあと思

うかもしれませんが、それは違います。その時代の最高に知性的な人だって天動説を信じていたのです。パラダイムというのは、それほど強力に時代を覆い尽くしているものなのです。

40

A、どのようにして天動説から地動説へとパラダイムが転換していったのでしょうか。まったく知識がなかったら、天動説と地動説だと、天動説の方が信じやすいと思いませんか？ だって、地面がすごいスピードで動いているなんて、普段生活していてもまったく感じないのですから。

B

昔は、なんとなく天動説が圧倒的に優勢だったのです。

45

C、技術が進み、いろいろなことが観測されるようになって、おかしいぞということが少しずつでできました。たとえば、地球がじっとしていると考えると、惑星の動きを説明するのに、相当に複雑な考えを持ち出さないといけないことがわかってきました。16世紀になって、コペルニクスは、『天球の回転について』という本に、太陽が中心にあって、地球も惑星もその周りを回っていると考えた方が合理的だと書きました。

50

この考えは、地球が宇宙の中心であるという聖書の考えにあわなかったために、反発をくらい、なかなか受け入れられませんでした。ちなみに、コペルニクスは、この本を死ぬ前年に発表しています。教

55

会からクレームがつくのがわかっていたので、出版をそこまで遅らせたのではないとも言われています。

しかし、その考えの方が正しいのではないかという研究成果――

すなわち 1 に対する反証です。――が徐々に蓄積していき

60

ます。そんな時代の中に登場したのがガリレオです。ガリレオは、望遠鏡による観測で、木星の周りに四つの衛星があること、すなわち、木星もその周囲を回る星を持っている、ということを発見しました。これによって、地球が宇宙の中心であるという 2 に決定的なダメージを与えたのです。

65

最終的にはもちろん 3 が認められたわけですが、一発ですんなりいったわけではないのです。コペルニクスとガリレオでは90歳くらい歳が違いますから、コペルニクスの考えが出されてからパラダイムが入れ替わるまで、かなりの年数がかかったことがわかります。パラダイムというのは、非常に強固なものなので、少々のも反論があっても、都合のいい言い訳を編み出してパラダイムを守るため、その反論を跳ね返してしまいます。しかし、さらに反論がどんどん積み重なっていくと、いよいよもたなくなると、最終的にその説が破綻し、初めてみんなの考えが変わるのです。

70

科学哲学という分野があって、科学とは何か、とか、科学の方法とかを考える哲学です。その分野で有名なひとりにトーマス・ク

75

ンという人がいます。そのクーンが、ここで簡単に紹介したように、科学というのは、あるパラダイムが次のパラダイムへと転換する「パラダイムシフト」によって進歩するのだという考え方をとりいれました。この考えは『科学革命の構造』という本に書かれているのですが、学説が破綻して次の学説に進むというのは、確かに、社会における革命に少し似たところがありますね。

みんなが信じ込んでいるパラダイムであっても、間違えている可能性があるとすることはわかってもらえたでしょうか。ある意味では、科学は、X ということによつて

進歩してきた、という言い方もできるのです。だから、科学では、みんなが信じている考えだからといって鵜呑みにしない、ということが大事なのです。

④ 科学者のいちばんの楽しみは何でしょう。いろいろあると思いますが、世界中の誰も^{だれ}が知らないことを見つけた時の喜びがいちばんです。みなさんも、ふだんの生活で、何かの秘密を知ったらうれいでしょう？ それを思いうかべてもらうと、世界中で自分だけが、自然が作り出した秘密の一端を知っているのが、いかに嬉しいかを想像できるかもしれません。

そのためには、これまでの説や、すでに知られていることとは違うものを見つけ出さなければなりません。だから、他の人のいうこ

☆

とをハイハイそうですね、と聞いてはいけません。常に「それっておかしいのと違う？」とか「ほんまですかあ」とかいう気持ちでいないとだめなのです。いちいちそんなふうに考えていると、ちょっと変な奴だと思われるかもしれません。それに、いきすぎると性格が悪いと思われるかもしれません。しかし、そういった考え方をとらないと、科学というのは決して進まないのです。

この姿勢は、科学とか発見とかだけではなくて、日常生活でも、ある程度は大事なこともかもしれません。みんなと同じことばかりしているのは、そこそこ面白いかもかもしれませんが、^⑤ つきぬけた楽しさを得ることは難しくなります。決して、協調性をなくせとか喧嘩をしろと言っているわけではありません。たとえ周囲と意見が違ってても、自分が正しいと思ったことは、信念をつらぬかねばならないこともあるはず。科学は決して多数決だけで決まるものではないのです。

(仲野徹「科学者の考え方——生命科学からの試験」)

(内田樹編『転換期を生きるきみたちへ——

中高生に伝えておきたいこと』所収)

※信条……固く信ずる事柄。

※ガリレオ……イタリアの天文学者。(一五六四〜一六四二)

※コペルニクス……ポーランド生まれの天文学者。(一四七三〜一

※反証……正しくないことを示す証拠^{しょうこ}。

問一 〰〰〰〰線「完全」と同じ構成の熟語を次から一つ選び、記号

で答えなさい。

- ア、最初 イ、登山 ウ、高低 エ、危険

問二 〰〰〰〰線A～D「の」のうち、性質が異なるものを一つ選び、

記号で答えなさい。

問三 〰〰〰〰線①を言いかえたものとして適当なものはどれですか。

次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア、完全な合意がなされないのは恐ろしい状況^{じょうきよう}である。
イ、完全な合意がなされないよりも恐ろしい状況である。
ウ、完全な合意がなされないほど恐ろしい状況はない。
エ、完全な合意がなされないことで恐ろしい状況になる。

問四 〰〰〰〰線②とありますが、その理由とはどのようなのですか。

次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア、真実はいつも一つなのだが、好き嫌いにより意見が分かれることもあるから。
イ、真実はいつも一つなのだが、断定することで反対説が出てきてしまうから。

ウ、真実だと思われていたものが後の研究の結果で真実でなくなることもあるから。

エ、真実だと思われていたものは歴史的に必ず後の研究でくつがえされてきたから。

問五 〰〰〰〰線①に入る正しい言葉を次から一つ選び、記号で答えなさい。

問五 〰〰〰〰線①に入る正しい言葉を次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア、科学者の良心
イ、真実の勝利
ウ、歴史の証明力
エ、勇気ある断定

問十一 次のうち、本文の内容からみて適当なものにはAを、適当でないものにはBを解答らんに記入しなさい。

ア、合意を得ることは政治の世界では難しいが、科学の世界では政治ほど難しくはない。

イ、科学は好き嫌いをあつかうものではないので、政治よりもかえってわかりにくい。

ウ、科学者は物事を断定的にあつかって研究を進め、新しい発見を続けてきた。

エ、天動説から地動説にパラダイムを転換するには長い年月がかかった。

オ、これまでの常識をただ受け入れていくだけでは、科学は決して進歩しない。

〔三〕 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

(設問の都合上、本文を改変、省略したところがあります。)

*字数指定のある問題については、句読点・記号も字数に数えます。

悟さとの家にハチがやってきて二年ほどたった。幸介こうすけと悟は小学校六年生になっていた。

秋が深まったところに修学旅行があった。京都へ二泊三日。お寺なんてどこも(a)もおんなじにしか見えなかったけど、友だちといっしょに知らない土地で寝泊まりするだけで楽しくて仕方なかった。

いつもでは考えられないほどたくさんのおこづかいを按配あんばいしてみやげを買うのも。自分のほしいものもたくさんあるけど、家族にもおみやげを買わなくてはいけない。予算の配分にはみんな頭を悩ませた。

おみやげ屋さんの店先で、悟がむずかしい顔で悩んでいた。「どうしたの?」と声をかけた。

「うん、どれ買おうかと思って。」

悟が悩んでいたのは色(b)のあぶらとり紙のコーナーだ。

「お母さんがなんとか屋のあぶらとり紙買ってきてって言ってたんだけど、忘れちゃって。」

「そんなのどれでもいいっしょじゃないの?」

しかし悟はにえ切らないようなので「お母さんのおみやげは後にしたら？」と言ってみた。その提案には悟もあっさりうなずいた。

「じゃあ、お父さんのおみやげ買おうかな。」

「そうしなよ。ぼくもお父さんのおみやげ買おうっと。」

いくつか店を見て回り、先に決めたのは幸介だ。「商売繁盛」と書かれたのぼりを背負った招き猫のキーホルダー。猫を好きになつてくれたらな、という

A もちよっぴりふくんている。

「あ、それいいなあ！」

悟もコミカルな表情の招き猫に目を輝かせた。

「でもうちはお店じゃないから、商売繁盛ってちよっとおかしいよね。」

「商売繁盛のほかにもいろいろあるよ。」

お父さんのおみやげにしてもおかしくないのぼりの文句は「健康第一」と「交通安全」だった。ほかに「家内安全」というのもあったが、これは意味がよくわからない。

結局、招き猫がハチに似ているからという理由で悟は「★」を選んだ。

お母さんのおみやげは結局思い出せなくて、また次の日に探すと言っていた。翌日は行程の二日目だった。

だが、翌日のお昼ごはんが終わると、悟はいなくなっていた。班で集合するとき、担任の先生から「宮脇くんは事情があつて先に帰

35

りました。」と説明があつた。

「えー、宮脇くんかわいいそう。」

クラスメイトから口々に B の声が上がった。せっかくの修学旅行なのにとちゅうで帰らなくちゃいけないなんて、自分の身に置き換えて考えるとかわいいそうすぎる。

「澤田くん、何か聞いてないの？」

幸介も何も聞いていなかった。一番仲良しの幸介にも何も言わないで帰ってしまったのだから、きつとよほどの事情があつたのだらう。

悟、お父さんのおみやげは紙まだ買えてないのに。おじさんだけおみやげがあつてお父さんがなかったら、お父さんがっかりするんじゃないかな。

そうだ、とひらめいた。

I 。なんとか屋のおみやげ

紙。でも、どうしたらわかるかな。

悩みながら見学先は金閣寺だ。キンキンキラキラのお寺は今まで観てきたしゅいお寺とは一線を画す特異な個性を放っていて、生徒たちは「派手ー！」と大さわぎである。悟もいっしょに観られたらよかったのにな、と胸がちよっぴりいたんだ。

自由行動になつて、同じクラスの女子がおみやげ屋さんできゃっきゃとはしゃいでいるのが目に入った。ここでもう一つ「そうだ。」

55

がひらめく。

II

。だってあぶらとり紙って女子の持ち物だし。

「ねえねえ。」

にぎやかな小鳥のようにさえずっている女子たちに声をかけてたずねる。

「なんとか屋のあぶらとり紙ってわかる？ 何か、有名どころみたいなんだけど。」

回答は一発だった。

「よーじやだよ。よーじや。向こうにお店があるよ。」

女子たちは今からそこへ行くところらしく、幸介もいっしょに連れていってもらった。

あぶらとり紙は一番安いやつでも三百円以上して、おこづかいの残りを考えるとちよっとひるむ。

……でも、悟は修学旅行のちちゅうで帰っちゃってかわいそうだし。ぼくは悟の親友なんだから。

悟はきつと、とちゅうで帰らなくちゃいけなかったことよりも、おばさんのおみやげを買えなかったことを気に病んで^やいる。それがわかるのは幸介だけだ。

男子にとってはどこにどうい価値があるのか全然わからないが、

75

こけしみたいなイラストが描^{えが}かれたあぶらとり紙を一つ買った。あんまりうすっぺらいので、これで本当におばさんは喜んでくれるのかなと心配になったが、とにかく本人のリクエストだ。

「澤田くん、お母さんによーじやたのまれたの？」

「ううん。悟がお母さんにたのまれて探してたんだけだ。買えずに帰っちゃったから……。」

すると女子たちは「澤田くんいいやつだねー！」と口々に感心してくれた。悪い気はしない。

「宮脇くんのお母さん、絶対喜ぶよー！ 有名だもん、ここ。」

そんな有名なかとおどろくと同時にほっとした。それならべらべらでも悟のお母さんは喜んでくれるに違^{ちが}いない。

自分の母親のおみやげもこれにすればよかったなと思ったが、それは前日にもう買ってしまっている。母親におみやげを二つというのは予算オーバーだし、母親だけおみやげを二つ渡^{わた}したらふきげんになる父の顔が目に浮^うかんだのであきらめた。

三日目、修学旅行の全行程を終えて家に帰り着いたのは夕方だ。「ただいま！」

おみやげを出しながら旅行のことを話そうとすると、父親にいきなりこづかれた。

95

65

85

70

90

「能天気にはしゃいでるんじゃない！」

おみやげを渡そうとしたのに、雷かみなりを落とされるだなんて、こんな理不尽りふじんな話はなが他ほかにあるだろうか。きっと修学旅行から帰ってきたクラスメイトのだれもこんな仕打ちは受けていない。それを思うと泣きたくなった。

すると母親が神妙しんみょうな顔で言った。

「すぐに着替きかえて悟くんのところに行くわよ。」

「そうだ、悟がとちゅうで帰っちゃったんだ。何かあったの？」

母親は目を伏ふせて言葉を探していたが、父親が怒おこったような声でずけずけと言いい放はなつた。

「悟くんのご両親が亡なくなったんだ。」

なくなった、という表現がピンと来なくてぼんやりしていたら「死んだんだ！」と追おい討うちが来た。

意味がわかったと同時に目めがぶっこわれたみたいに涙なみだがぶわつとあふれた。めそめそすんなとまたこづかれるが止とまらない。

悟——さとる、さとる、さとる、さとる！ 一体なんてことに、

修学旅行に出かける前日にも悟の家に行いって遊あそんだ。ハチと遊あそんでいるとおばさんは「明日あすは修学旅行でしょ、朝早あさいんだからそろそろ帰かえりなさい。」と幸介を送り出してくれた。「ハチとはいつでも遊あそべるでしょ。」と。

115

修学旅行が終わって遊びに行いったらおばさんもいるはずだった。

おじさんも。いつもどおり、いつでも会えるはずだった。

何なにより、修学旅行をとちゅうで帰かえらされて、お父さんとお母さんがいきなりいなくなっていた悟はいったいどれほど悲かなしかっただろう！

「交通事故だったの。いっしょに車で出でかけていて、飛び出でしてきた自転車じてんしゃを避よけようとして……。」

自転車は避よけられたが、二人ふたりは助たすからなかった。

「今日きょうがお通夜つうやだから行いってあげようね。」

母親の出でした服ふくに着替きかえて親子三人で家を出でたが、住宅団地の坂の下まで来たときに忘わすれ物ものに気きがついた。

「そんなもんまた今度こんどでいいだろう！」

怒おこる父親ちちにどうしてもとせがみ、先まに行いっていいからと家の鍵かぎだけでもらって一人ひとりで帰かえった。走はしってもどる背せ中に「グズなやつだな！」とはきすてられた。

悟の家ではなく、公民館こうみんかんだった。

黒くろい服ふくを着きたおばちゃんたちがいそがしく立ち働はたらき、棺ひつぎが二つならんだ祭壇さいだんの前まへにやっぱり黒くろい服ふくを着きた悟が所在そざいなげにすわっていた。

「悟。」

135

130

125

120

呼びかけると「うん。」とうなずいたがへ X 〽とい
う感じだ。幸介のほうも呼びかけた後、何を言っているのかわから
ない。

「これ。」

ズボンのポケットからうすい紙包みを出した。父親にグズとのの
しられて取りにもどった。

「おばさんの言ってたあぶらとり紙。よーじやだったよ。」

すると悟がとつぜん号泣した。

あれを慟哭とよぶのだともっと大人になってから、慟哭という言
葉を知ったときに思った。

黒い服を着た女の人がかげよった。

周りのおばちゃんたちよりずっと若い。もしかすると悟のお母さ
んよりも。悟に声をかけ、背中をさする様子から身内の人だとわかった。

「君は悟のお友だち？」

はいそうです、と背筋が伸びた。

「悟を家に連れて帰って休ませてあげてくれる？ この子、帰って
きてから初めて泣いたの。」

ぼくが泣かせちゃったのかな、と気がそぞろになる。それほど悟

の慟哭はすさまじかった。だが、女の方は泣きはらした目元でかす
かに笑った。

155

150

145

140

☆

④「ありがとう。」

悟の手を引いて、悟の家まで帰った。悟はとちゅうで何度もえぞ
きながら切れ切れにしゃべった。

お父さんのお守り間に合わなかった——



の招き猫だけ

160

ど意味なかった——お母さんのおみやげ買えなかった——買ってき
てくれてありがとう——

しゃべる内容をくみ取れたのは幸介だからだ。他人が聞いてもた
だほえるように泣いているだけとしかわかるまい。

部屋に入ると、玄関にハチが待っていた。獣のような泣き方を

165

している悟におびえた様子もなく、先導するようにリビングに向かっ
た。リビングでどうとうカつきてへたりこんだ悟のひざに乗り、そ
えられた悟の手をていねいにていねいになめ続けた。

拾ったときは子猫だったのに、今はハチのほうが悟よりも大人の
ようだった。

(有川浩『旅猫リポート』)

※ハチ……幸介と悟に拾われた猫。今は悟の家で飼われている。

問一 (a)、(b)に入る言葉をそれぞれひらがなで答えなさい。ただし、(a)は三字、(b)は四字で答えること。

問五 —— 線②とありますが、このときの幸介の気持ちを説明し

たものとして適当なものを次から二つ選くび、記号で答えなさい。

ア、つい先日まで当たり前前に存在していた悟の両親が突然亡なくなり、もう二度と会えないということに大きな悲しみを感じている。

イ、いつも優やさしく自分を迎むかえてくれた悟の両親と比べて、自分の

父があまりにも意地悪であることを考え、腹立たしく思っている。

ウ、友人である悟の両親が亡くなったというのに、その深刻な事態を察することができなかった自分自身を悔くいている。

エ、先日会ったばかりの悟の両親が亡くなったという予想外の事

実を告げられ、その言葉が受け止められずばうぜんとしている。

オ、突然、全く予想もできない形で両親を亡くした悟の悲しみの大きさに思いを寄せ、自分のことのように辛つらく苦しく感じている。

問二 A、Bに入る言葉として適当なものを次から

それぞれ選くび、記号で答えなさい。

A ア、真心 イ、親心 ウ、下心 エ、気心

B ア、感激 イ、同情 ウ、批判 エ、困こんわく惑

問三 I、IIにはそれぞれ、幸介がひらめいた内容

が入ります。ふさわしい言葉をそれぞれ考えて書きなさい。

問四 —— 線①とありますが、「女子たち」は、幸介(澤田くん)

のどのようなところに「感心し」たと考えられますか。五十

字以内で答えなさい。

問六 —— 線③「忘れ物」とありますが、これは何を指していま

すか。簡潔に答えなさい。

問七へ X へに入る慣用句として適当なものを次から一つ

選び、記号で答えなさい。

ア、猫の手も借りたい

イ、心ここにあらず

ウ、歯が立たない

エ、後ろ髪を引かれる

問九 二カ所ある ★ に共通して入る言葉を本文中から探し、

四字でぬき出しなさい。

問十 ☆の部分に描かれているハチの動作には、ハチのどのような

思いがこめられていると考えられますか。本文の内容をふま

えて、あなたの考えを自由に書きなさい。

問八 —— 線④とありますが、なぜ「女の人」は幸介に「ありが

とう」と言ったのだと考えられますか。その理由として最も

適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア、悟の母親がほしがっていたあぶらとり紙を買ってきてくれ

たから。

イ、内気で言葉数の少ない悟にも親しい友人がいたことがわかっ

たから。

ウ、悟を家に帰らせて休ませたいという頼みを、幸介が聞いて

くれたから。

エ、悟が自分の感情を外にはき出す機会を、幸介が作ってくれ

たから。